

週報

こひつじ

第40巻 18号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

導かれる神

主の命令によって、イスラエル人は旅立ち、主の命令によって宿営した。雲が幕屋の上にとどまっている間、彼らは宿営していた。

(民数記 九の一八)

その一 神の見えざる御手

荒野におけるイスラエルの民の 雲が上ると旅立ち、雲がとどま生活はどのようなものであったか。ると宿営した。雲が上らなければ、聖書は言う。

「朝になって雲が上れば、彼らは 何年でもそこにとどまった。実に、

ただちに旅立った。昼でも、夜でも、雲が上れば、彼らはいつも旅する荒野の生活を通して神に導かれた。二日でも、一月でも、あることを学んだのである。

立った。一年でも、雲が幕屋の上にとどまると去らなければ、イスラエル人は宿営して旅立たなかった。「神に導かれる」という表現を私

ただ雲が上ったときだけ旅立った」が初めて知ったのは、教会へ来てからだった。それまで、人生は自分の力や考えで切り開いてゆくも

彼らの行動は簡単だった。

のだと思っていた。

しかし、確かな人生を送りたければ、神に導かれなければならぬ、というのが聖書の教えである。

同志社の創立者新島襄は、最初の卒業生を送り出すとき、その式辞でこう言った。

「行け、行け、心やすらかに行け、強くあれ、神の見えざる御手は必ず諸君を導いてくださるであろう」一人ひとりの人生は神の見えざる御手によって導かれる。それは新島自身の体験だった。

江戸末期、新島は危険を犯して日本を脱出した。それはアメリカで新しい教育を受け、その教育によって未来の日本に貢献したいと思ったからだだった。

運よくアメリカ船に乗り込み、一年の航海を経てアメリカに着くのだが、彼に教育を提供してくれるような人などいなかった。せつなくアメリカに来たものの、奴隷的労働以外に生活手段のない現実

に、彼は途方にくれた。しかし神は彼を見捨てなかった。船会社の社長ハーデーが彼に関心を示したのだ。

ハーデーに求められ、「なぜ祖国を去ってアメリカに来たのか」

を新島が英文で書くと、それを読んだハーデーは深く心を動かされ、確かに神はこの男をアメリカに遣わされたのだと感じたという。

こうして新島は、ハーデーの援助で教育を受けることになる。

もし彼がハーデーに出会わなかつたら、のちの新島はなかつたら。彼は生涯ハーデーを自分の恩人と考えた。そして、自分に起こった、これらすべてのことは神の導きによつたのだと確信した。

同様に、神はわれわれの人生をも導いてくださっている。あの偉大なヨセフの人生もそうだったのではないか。

自らの力で道を切り開こうとして彼は決してあのような偉大な人生を送ることはできなかったのだ。

彼は兄たちに憎まれ、エジプトに売られ、奴隷となり、のちには、えん罪で牢獄に投げ込まれる。こうして彼の願いや計画、予定は、ことごとく退けられる。

しかし彼に起こるべき事がすべて

て完了したとき、彼は不思議にもエジプトの総理大臣になっていた。そのとき飢饉がパレスチナ全土を覆い、なんと自分を奴隷に売った兄弟たちが、へりくだって彼のもとに食糧を求めてやってきたのである。

先週の礼拝

兄たちのその姿を見て彼はわかった。すべては、このときのためだったのだと。

そこでヨセフは彼の復讐を恐れ

ていた兄たちに言った。「今、私をここに遣わしたのは、あなたがたではなく、実に、神なのです」と。

先週の出席

私自身の人生を振り返ってみても、必ずしも、それは自分の希望通りのものではなかった。落胆したことも多くあった。

第一礼拝が四一名、第二が四二名、合計八三名(男二九、女五四)。

おめでとう

にもかかわらず、今になってわかるのは、神は、私のために最善のことをしておられたということだ。

マレーシアから来日してT S M Cに勤務しているベニーさんの妻 ミッシェルさんに、五月四日、ぶ

今日の礼拝

じ女の赤ちゃんが誕生しました。おめでとう。名前はハンナちゃんです。健やかな成長を祈ります。

ケニー広子さんのこと

ケニー広子さんは、第二礼拝は午前一時から。

近く九〇歳になられる、ケニー宣教師夫人の広子さんよりお便りと献金がありました。感謝。

愛する米村夫妻へ、毎週、お送りくださる週報を心からありがとうございます。幾年もの間、送っていただいた文書、感謝して繰り返し読んでいます。ほんとうに恵まれます。

英二さんと幸子さんの歩みは私の手本です。おふたりと教会の上に、主の豊かな祝福がますます加わりますように。(広子)

広子さんは、小学校の教師をしておられたとき、ジャック・ロツカー宣教師と出会い、回心し、その後、教師をやめ、ジャックさんの通訳として、日野教会の開拓伝道に従事されました。

やがてジャックさんの協力宣教師として来日したケニーさんと結婚し、ジャックさんの帰国後は、夫のケニーさんとともに現在の日野教会の基礎を作られました。

日野教会を加藤満牧師にゆだねると、ケニー夫妻は新たな開拓地

を探しておられました。半年ほど、熊本の天津町の伝道に従事されました。天津の伝道を始めたチャック・ニコラス宣教師が、

おふたりの友人であったことから、彼らの帰国中の留守を守ってくださったのです。西岡誠也さんや智子さん、岩崎まるみさんなどは、

その頃、高校生で、お世話になっているはず。ぼくと幸子さんが

その後、ケニー夫妻は、山梨県の甲府で伝道を始め、まもなくその働きを加藤純也牧師にゆだね、

それから神奈川県の海老名、大阪、そして最後は札幌と働きを続けられました。二〇〇二年に夫のケニーさんが召されたあ

とは、東京都江東区在住の長男ジョンさん宅のすぐ近くで広子さんはひとり暮らしをされています。

若い頃、ぼくたちもケニー夫妻にはずいぶんお世話になりました。今も、こうして交流のあることは感謝です。いつまでもお元気で

あられるように祈りたいと思います。